

西之島の火山活動解説資料（平成 28 年 2 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

2013 年 11 月以降、西之島では噴石等を放出する噴火や溶岩の流出が続いていましたが、2015 年 11 月下旬以降はいずれも確認されていません。12 月以降は地表面温度の低下が確認されています。今期間に海上保安庁及び海上自衛隊が実施した上空からの観測でも、観測中に噴火は認められませんでした。

このため、17 日 18 時 00 分に火口周辺警報（入山危険）を切替え、警戒が必要な範囲を火口から概ね 1.5km の範囲としました¹⁾。

表面的な活動に低下が認められるものの、これまで 2 年以上活発な火山活動が続いてきたことから、火口から概ね 1.5km 以内では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒してください。

活動概況

< 3 日の状況 >（図 3）

3 日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、観測中（12 時 40 分～13 時 33 分）第 7 火口から噴火は認められませんでした。火口縁南側付近の 1ヶ所からごく弱い噴気を確認しました（図 3）。西之島北側の海岸線には薄い褐色、その他の西之島周辺の海岸線には青白色の変色水域が、海岸線から沖方向へ幅約 200～500m で分布していました。

新たな陸地の大きさは、東西約 1,940m、南北約 1,940m、面積 2.63km² となり、前回（1 月 19 日）の調査時と比べてほぼ変化はありませんでした。

< 16 日の状況 >

16 日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、観測中（14 時 20 分～25 分）に、第 7 火口からの噴火の発生等、火山活動に伴う特異事象は認められませんでした。

< 18 日の状況 >（図 4）

18 日に海上自衛隊が実施した上空からの観測では、西之島周辺の海岸線に薄い褐色の変色水が幅約 100～300m に分布していました。

なお、西之島及び新たな陸地には、津波を発生させる恐れのある、海岸線に平行に走る断層やクラックは認められませんでした。

- 1) 平成 28 年 2 月 17 日に火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報の切替にあわせて臨時的解説情報を発表しています。警戒範囲の詳細等は、臨時的解説情報をご覧ください。
- 2) 噴石について、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流れてふる小さな噴石」のことです。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.htm>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 28 年 3 月分）は平成 28 年 4 月 8 日に発表する予定です。

この資料は、海上保安庁のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



図3 西之島 第7火口の状況（2月3日13時20分 北西方向から撮影・海上保安庁提供）
・観測中第7火口から噴火は認められませんでした。火口縁南側付近の1ヶ所からごく弱い噴気を確認しました。



図4 西之島 変色域の状況 2月18日09時46分 西方向から撮影・海上自衛隊提供）
・西之島周辺の海岸線に薄い褐色の変色水が幅約100～300mに分布していました。